



海舟の玄孫が語る

瘠(やせ)我慢(がまん)の精神とは？ ～勝海舟と福沢諭吉～

福沢諭吉は、1891年に著書『瘠我慢の説』（英題：On Fighting to the Bitter End）の中で、江戸城無血開城（1868年）を進めた勝海舟に苦言を呈しています。彼らの関係性の本質とは何でしょうか？なぜ福沢諭吉は彼の著書にあるように「武士道」を定義したのでしょうか？そして“fighting to the bitter end（「究極まで（死ぬまで）闘う」）という姿勢に、歴史はどんな判断を下したのでしょうか？アメリカ人歴史学者で海舟の玄孫（やしご）が振り返り、講演を行います。

*** 講演は英語で実施。日本語訳字幕付。**

事前申込が必要となります。

座席に余裕がある場合は、当日でも受付可能です。

申込方法

北星学園大学 国際教育課

011-895-1000 (9:00-17:00)

またはEメール

intlcenter@hokusei.ac.jp

にてお申込みください。

主催：北星学園大学 国際教育センター

講師：ジュニアータ大学准教授

ダグラス・スティフラー

開講日：2017年5月30日(火)

10:30-12:00

受講料：無料

会場：北星学園大学 50周年記念ホール

札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

アクセス：

地下鉄東西線「大谷地駅」

1番出口より徒歩5分

※公共交通機関をご利用ください。

講師プロフィール ダグラス・スティフラー

ハーバード大学卒業（東アジア学、1990年）、カリフォルニア大学大学院でPh.D取得（現代中国史研究、2002年）。現在、本学の協定校である米国のジュニアータ大学准教授として、現代中国史・日本史、東西冷戦及び中ソ関係史、「サムライ論」などを担当し、勝海舟と福沢諭吉の世界観を比較研究。

曾祖母はクララ・ホイットニー（明治初期に海舟の子・梅太郎と国際結婚し6人の子どもに恵まれ、海舟の没後に子どもたちと米国に帰国）で、スティフラー氏は海舟の玄孫（5世代目）にあたる。